

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2774901165		
法人名	社会福祉法人 華芯会		
事業所名	ジェントレス宮		
所在地	大阪府富田林市宮町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成 30年 10月 31日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JiyogyoCd=2774901165-006&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 11月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「自分が利用者だったら」を常に考えたサービス提供が出来るように、利用者様の立場に立ちながら一人ひとりのペースを大切にしています。開設当初から実施してきたオリジナルの体操や、嚙下体操、フットケアなど継続して行う事で残存機能の維持につながっています。利用者様一人ひとりのご希望に耳を傾け、その時々動く感情を大切に、生活の場面に取り入れるように努めています。利用者様を支援される一方的な立場に置かず、一緒に寄り添い活動できるように心がけています。

設立14年目のホームは、理事長の「生まれ育った地域で最後まで暮らせるように-ゆりかごから墓場まで-」の思いが込められています。管理者、職員は、市の協力も得て、地域交流の活性化に向けた認知症カフェを開催し健康チェックや体力チェックを行いました。カフェでは、ホームの役割や災害時の地域資源として、自家発電や備蓄があることなどを発信する機会となりました。ホームでは「自分が利用者だったら」の理念の基、常に利用者様の立場に立ち、主人公になれる場づくりや一人ひとりの声を大切にしたいケアが提供されています。今年は「歌う敬老会」と題して、利用者は職員と共にカラオケを楽しみ、一人ひとりに日頃の感謝を込めた、素敵なメッセージの表彰状が贈られました。誕生会やハロウィン、園児たちとのプレゼント交換、浴衣を着ての七夕、獅子舞、花見、外食などの行事も充実しています。食事は栄養献立会議で利用者と献立を決定し、3食とも手作りです。おやつにたこ焼き、テレビの料理番組を見てピザづくりを楽しんでいます。常に利用者と共に、笑いあり、お喋りありの自由な暮らしが提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>開設当初から「自分が利用者だったら」を常に考えたサービス提供を理念とし実践してきました。施設内数ヶ所に掲示し、周知に努めています。</p> <p>また、ご家族様へ送る通信や、運営推進会議、地域交流会の中でも理念を紹介し、当施設への理解を深めて頂ける様に努めています。職員は、食事や排泄等日常生活の支援において、「自分が利用者だったら」と常に考えながらケアの具現化に努めています。</p>	<p>開設して14年を迎えたホームは、地元で親を介護した理事長が、「ゆりかごから墓場まで」の思いで、設立したホームです。当初から理念である「自分が利用者だったら」をケアの基準におき、「自分が嫌なことはしない、自分だったらどうしてほしいか」を考えながら、サービスを提供しています。理念は、家族や利用者、地域の人が見えるところに掲示しています。職員は、理念を基に、利用者と共に笑顔で、会話を楽しみ、自由な暮らしを提供しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>日常生活を通じ散歩などの際には積極的に挨拶を行い、自然に交流が持てるように心がけています。 自治会にも加入し、町会の活動報告や、地域の状況等伺い、協力出来る体制作りをおこなっています。 お米は近隣の農家から年間契約で購入したり、近隣住民から野菜を頂いたり、開設当初から継続して行っています。地域の保育園との交流や、地域交流会を通し地域との繋がりを継続して持てるように努めています。</p>	<p>自治会に加入しており、自治会の総会にも参加しています。今年から地域貢献活動として、認知症カフェを開催しました。第1回のカフェでは、健康チェック、体力チェックも行い、近隣の人にホームを知ってもらう機会となりました。ホーム(敷地近隣)の畑で作業している人と挨拶を交わし、野菜や花をもらうこともあります。近隣農家よりお米の購入、地域の商店への買い物など、地域との繋がりを大切にしています。長年、保育園児と交流を重ねておりプレゼント交換をしています。お祭りでは獅子舞がホーム内の一人ひとりの利用者に関わり、一緒に地域行事を楽しんでいます。運営推進会議等を通じて、地域との繋がりが広がっています。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>問い合わせ、相談に対しては引き続き関係機関と連携し、適切な対応を行っています。また、地域交流会を通し、認知症相談や、施設での暮らしぶりを知って頂ける用に努めています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、規約を定め、2ヶ月に1回定例で開催しています。 会議は、家族会会長、利用者様、地域の方、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、法人理事長などで構成し、出席して頂いています。 会議では、利用者様の状況報告を行い、写真や通信を見ながら、施設での活動内容や取り組みについて報告しています。会議で出たアドバイスや意見にて物品の購入をしたり、行事に組み込んだりし、サービスの向上に努めています。</p>	<p>運営推進会議には、家族会会長、利用者、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、法人理事長などが出席しています。会議では、行事の写真などを用いて、サービス状況や研修会の内容なども報告しています。今年、運営推進会議を通じて、地域の住民を交えての防災訓練を実施し、災害時の対応を地域の人とともに考える機会となりました。また、地域交流会の開催に向けては、助言や協力を得ています。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>各報告以外にも、市町村担当者と連絡を取り、相談しやすい関係作りができています。2ヶ月に1回のグループホーム事業者連絡会には、市の担当者も出席し、認知症の人や、その家族の支援の為に、空室状況の情報を共有し、相談等を行っています。 また、地域交流会の開催等も市の職員に相談しアドバイスを頂いたり、ご協力頂いています。</p>	<p>日頃より、市の担当者と交流を図っています。地域交流会として始めた認知症カフェ開催に向けて相談し、助言を得ました。2カ月に1回ある事業所連絡会へは、市の担当者も出席しており、グループホームの職員交流やホームの空き情報の交換なども行っています。事故が発生した場合には、速やかに届けを出し、日常的にも様々な事柄について報告、相談し、助言を受けています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束適正化の為の指針を作成し、2ヶ月に1回委員会を開催しています。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、日中は開錠しています。「身体拘束ゼロへの手引き」を基に身体拘束への意識を高めるように努めています。</p> <p>「自分が利用者だったら」を常に意識して「外に出たい」という気持ちや、行動を大切に、寄り添うようにしています。</p>	<p>職員の人権の意識は高く、理念に掲げている「自分が利用者だったら」を常に意識して、ケアにあたっています。研修では、虐待事例など「You Tube」を活用して、リアルな動画を用いた研修を行っています。玄関の鍵は開放しており、自由に入出りできる環境を整えています。日常のケアの中で、「立たないで」などの行動制限をする言葉かけ（スピーチロック＜言葉による拘束＞）でなく「どうしましたか」と声をかけ、職員同士が身体拘束を意識したケアの提供を心がけています。どのようなことが拘束であるのかを学ぶための研修を実施し、職員同士、言葉遣いや対応などが気になった場合は、その場で注意しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化の為の指針を作成し、勉強会にて周知に努めています。 身体拘束に関する研修に参加し、年3回勉強会を行っています。 言葉による拘束や、行動制限をしない為に、職員同士声をかけ合い、注意し合うように努めています。 今後はスタッフのストレスケアに対しても事業所内で取り組みを行っていきます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社会福祉士の資格を持ち、勉強会等に参加し、必要な制度への理解を深める努力を行っています。 利用の際には、ご家族様や、各関係機関と密に連絡、相談、報告を行い、より良い生活が送れるように支援を行っていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前後には利用者及びその家族の要望を聞き、時間を取って十分な説明を行い、安心し納得して利用して頂けるように努めています。 また、改定事項がある場合には、書面にて案内を送付し、家族会で説明するなど、ご理解いただけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談受付箱を設置し、苦情をサービス改善に活かせるようにしています。ご家族様が面会に来られた際は、必ず声かけを行い、お茶を飲みながら気軽に話せる雰囲気作りに努めています。その際にご家族様の意見や要望を伺える様に努めています。</p>	<p>家族会があり、敬老会や誕生会等に参加してもらうよう働きかけています。総会や運営推進会議の場でケアや行事等の取り組みへの意見、要望を聞く機会を設けています。出された意見は話し合い、できるだけ実施できるように取り組んでいます。家族の要望で、図書コーナーを設置し、各部屋にも本を置くことになり、利用者も読書を楽しむようになりました。また、一人になれる空間づくりとして、ソファを設置するなど家族と一緒に取り組みました。ジェントレス宮の広報誌を活用し、行事の写真や一人ひとりの生活の様子をお便りで伝えています。常に利用者や家族の思いをくみ取ろうと努力し、職員一同で取り組む姿勢がみられます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やフロアー会議、毎日の申し送りの中で、自由に発言できる機会を設け、意見を反映できるように努めています。年に1回ではあるが、法人理事長、管理者との三者面談を行い、職員の意見や、企画などの提案を聞く機会を設け、施設運営に反映できるように努めています。</p>	<p>長年職員として働いてきた管理者は、職場の状況を把握しており、職員の気持ちを理解した上で、運営にあたっています。日頃から、個別の相談にのり、要望や意見を聞く機会を設けています。各フロアにリーダーを置き、職員の意見が吸い上げられるよう、風通しの良い関係を保つような組織の再編をしています。職員が行事等の企画を提案した場合も、できるだけ実施できるようにサポートしています。レクリエーションに使用するカラオケセットの購入は、職員の要望を実現したものです。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年に1回、理事長と管理者と面談を行う際に、勤務状況などの確認も行い、個々にて目標をもって仕事が行える様にサポートしています。 また、個々の状況に応じて勤務のアレンジ等を行い、働きやすいように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の就業年数や経験、その時々に必要な事柄について、研修に参加出来るように考慮し、介護従事者としての質の向上に努めています。</p> <p>外部研修参加後は、施設内にて伝達研修として勉強会を行い、学んできた事の確認や、内容の理解度等の確認も行い、指導しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム交流会を立ち上げ、滞る事無く開催できるように、同業者と協力し合い、情報や意見の交換を行っています。</p> <p>他の事業所での行事などにも参加できるように、管理者を通し情報を頂き、交流が持てる機械を作っています。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>随時、施設見学をして頂き、入所される際には体験入所をご利用いただく等、本人の希望、要望等について十分な聞き取りを行って、安心して入所生活を送って頂ける様に支援しています。また、事前に荷物の搬入等を行い、安心してご利用頂ける様に、配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ時間をかけて相談に応じるようにしています。ご家族様の困りごと、希望、要望など十分に聞き取るように努めています。また、当施設での取り組み等を紹介し、納得して入所して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け付けた相談に対して迅速に対応し、必要時には関係機関と連携し、適切な対応を行っています。できる限り「今必要なサービス」を早く把握し、ケアマネージャーが中心となり職員の報告の元、サービス提供及びケアプランの取り組みを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設では利用者様には、家事を中心とした日常生活を送って頂いています。特に食事作りや洗濯たみは利用者様が中心となり行えるように工夫しています。洗濯干しは、室内に環境を整え、安全に活動できるようにしています。職員は家事に関する知識を利用者様から教えて頂く機会も多く、家事を通してより深い関係を築くことが出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様には、お誕生日会を主として利用者様と一緒に行事参加して頂けるように通信を通して呼びかけ、参加を働きかけています。 また、状態説明を密に行うことで、面会の機会を作り、外出や外泊の機会をもって頂けるように努めています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容院の利用や、利用者様の友人の来所、お友達からの電話など家族様の許可を取り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。また、利用者様のご兄妹や、ご近所付き合いのあった方などにも面会をして頂いています。 家族への手紙や年賀状を出す為の支援などを、継続して行っています。 家族以外にも利用者様にとって大切な人々にジェントレス通信を送り、関係の継続に努めています。</p>	<p>入居後も今までの生活が継続できるよう、家族の協力を得ながら、馴染みの美容院や外食などの支援をしています。利用者との会話から旧知の人間関係を情報として得て、家族の了解のもと、ジェントレス便りを郵送したこともあります。家族や友人への手紙や電話、毎年の年賀状を出すための支援も継続しています。日頃より、家族と利用者との関係が継続するよう、職員から声をかけ、だれもが来訪しやすい雰囲気づくりに努めています。入居前の友人や教え子、仕事の関係者が訪ねてくることもあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士でのトラブルや、関係性がストレスにならないよう、職員が利用者様同士のパイプ役となるように努めています。必要に応じて早めに介入し関係性が悪化しないように配慮しています。</p> <p>また、仲良しの利用者様同士には、話がしやすく、ゆっくりできる環境を提供したり、共同で作業をして頂いたり、良好な関係が継続できるよう配慮しています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>開設以来サービス利用終了後、在宅への復帰はない。病院への入院の際は情報提供を行い、入院中の様子伺いなども欠かさず行い、家族への相談支援も継続して行っています。</p> <p>また、他施設に入所され、不安を抱えるご家族様の相談にのり、安心して頂ける様に努めています。</p> <p>病院から再入所に繋がるようにも、支援を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、小さな気付きを見逃すことなく、言葉や表情などから把握できるように努めています。意思疎通が可能な方には生活への希望や、好きなことの聞き取りをケアプランに組み込んで、どの職員でも気を配り、情報が共有できるように配慮しています。特に1対1になれる足浴の時などにはご希望を聞けるトークに努めています。日頃の会話の中から利用者様の希望を聞き入れ外食や外出を実施し、個々の希望の叶えられるように支援しています。	日常の関わりから、利用者や家族の思い、暮らしの希望を聴取して、記録に残しています。できるだけ、利用者の役割設定や主人公になれる場面づくりに努めています。これまでの生活習慣を大切にしながら、入居後も暮らしの希望を把握し外出や宗教へ対応するなど、一人ひとりの要望に沿うように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前及び、入居後も家族から人生歴や生活歴を伺い生活状況の把握に努めています。プライバシーに配慮し、各サービス事業所から情報提供して頂くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様を総合的に把握し、心身状態や出来る力の把握に努めています。一人ひとりの状態に応じて、その時その時に応じて臨機応変なケアを行える様に、しっかりと記録に残し、情報を共有しチームケアの実施を行っています。また、個々の力に応じ、役割をもって頂き、ケアプランに反映しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人及びその家族から希望を聞いて、具体的にどのようなことがしたいのかなど、意見や要望などを記録に残しています。ケアの在り方についてはその都度、その時の利用者様の状況にあったケアを臨機応変に対応することを大切にしています。また、出来る事への維持、向上への視点を大切にしています。	計画作成担当者は、職員と共に利用者の楽しみとなり、本人が主人公になれるような場面づくり、生きがいに繋がるようなケアを目指して具体的な目標を設定しています。目標は、カンファレンスや申し送りを通じて、情報共有しており、目標に沿ったケアをチームで取り組み、計画を具現化しています。また、日々の利用者一人ひとりの生き活きとした様子が「生活の様子・気づき」として、詳細に記録されています。これらの介護計画は、家族や利用者の要望に合わせて概ね6ヵ月に一度、変化があった場合には都度、見直しをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にケース記録を記入し、日々の活動や生活状況、心身状態、発言や会話、ケアの実践内容を具体的に記録しています。また、情報を共有し日々の実践や、介護計画に活かしています。変化がみられる時は、記録を参考にしながら、ケアプランの見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の希望、要望に出来る限り柔軟な対応が出来るように、日常的に調整を行っています。買い物、外出、散歩、他科受診の移送、付き添いの支援などを行っています。また、必要時には管理医の時間外の往診や、訪問看護、訪問歯科や訪問理容などの対応もを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの理美容院を利用して頂く支援と、社会福祉協議会での催し物への参加の支援を行うと共に、地域の方々にご理解頂きながら、飲食店の利用も行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様一人につき月2～3回程度の管理医による訪問診察を実施し、健康面の支援を行っています。管理医との連携に努め家族様の希望に沿う適切な医療をうけて頂き、必要時、病院の受診ができる支援を行っています。また、通院の結果や、検査の結果などについても、本人や家族に報告し話し合いを行っています。 管理医も協力的に説明、話し合いにも参加して頂いている。</p>	<p>医療への受診支援では、管理医の紹介を行っていますが、本人、家族の希望を優先して対応しています。管理医の往診は、定期的に行われており、健康チェックや緊急時の対応に繋がり、安心して生活できる環境を整えています。歯科は、月2回の往診があります。夜間や緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、医療との連携が図れるよう努めています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者をよく知る看護師に報告、連絡、相談をしながら支援をおこなっています。日常の健康管理の方法や医療活用の支援の方法の指示をうけています。 また、必要時には訪問看護を導入し、密に情報交換を行い支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合、本人及びその家族に契約の取り扱いについて説明し、安心して過ごせるよう配慮しています。また、本人の状態についても病院関係者と連携し、情報交換や連携に努めています。不定期であるが出来るだけ面会に行かせていただき、状態の把握に努めています。また、退院時にはカンファレンスを開催し、予後の過ごし方などの退院後の指示やアドバイスを受けています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した利用者様でも出来るだけ長く当施設で生活して頂けるように配慮しています。入居契約の際に、重度化や終末期の対応については管理医の指示に従って頂けるように確約書を書いて頂いています。</p> <p>その都度、事業所として出来る事、出来ないことについて管理医や家族と話し合いを行っています。</p> <p>実際にホームで対応出来なくなる可能性が出てきた時は、管理医も同席のもと、家族の意向を丁寧に確認し、話し合いを重ねながら判断、対応するようにしています。家族様の希望があれば施設への見学や、入院の申し込みにも同行し支援しています。</p>	<p>重度化しても極力対応できるように努力していますが、現在は看取りを行っていません。入所時には利用者や家族にその方針を伝え、終末期に医療的処置が必要になった場合は管理医の指示に従う旨の確約書を交わしています。</p> <p>終末期の対応については運営推進会議や家族会でも話し合っていますが、ホームとしての今後の体制や在り方を検討するため、家族に対して希望や意向を聞くアンケート調査を計画中です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員会議やフロア一会議開催時、急変時の初期対応の勉強会を、実践を交えて行っています。事故発生時には、報告を行うと共に、今後同じ事故が起きないように今後の対策をその都度話し合っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルに基づき定期的に各種団体、近隣の方々に参加頂き、地域の人々の協力を得られる働きかけを行っています。平屋建てのため避難しやすい構造になっています。年2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の協力を経て行っています。訓練には自治会にも参加頂き、協力を得ています。非常災害時の飲料水及び食料品の備蓄も、1週間程度用意があり、災害への備えに高い意識を持っています。夜間の災害時に対しては、随時勉強会を開催し、職員全員が周知できるよう実地訓練を行っています。</p>	<p>災害対策のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の協力も得て、実際に消火器の実演もしています。今年は、地震や台風などの自然災害もあり、備蓄や避難経路など災害をイメージして取り組む機会となりました。訓練には、運営推進会議を通じて、地域住民の参加があり、避難時に地域への協力を依頼することや、ホームに自家発電があり、避難場所としての受け皿の場であることなど話をする機会となりました。ホームは平屋建てで避難しやすく、敷地も広く、非常災害用の飲料水、食料品も倉庫に1週間程度の備えがあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに対して十分な配慮を行っています。本人のお気持ちを大切に、理念である「自分が利用者だったら」を念頭に置き、そっとさりげない支援を行うように心がけています。人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にした声かけを行っています。 適切でないケアがあった場合はその都度指導を行っています。	一人ひとりの利用者に応じた声掛け、急がすことなく、ゆっくりと本人のペースに合わせたケアが実践されています。職員一人ひとりが、理念に基づき「自分だったらどのようにしてほしいのか」を日常生活でのケア場面において具体的に考え対応しています。トイレ誘導時のさりげない言葉かけ、ベッドのラバーシーツを日中外して、他の人に見えないような対応、排泄時のオムツ類が人目につかないように配慮するなど、尊厳が保たれるよう、意識したケアが実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの希望は日常的に聞くように働きかけを行い、要望や訴えが言いやすい雰囲気づくりを行い、個別に対応を行っています。食事面ではバイキングなどを取り入れ、選んで頂く場面を作り、支援しています。特に食事面では栄養会議を開催し、利用者の希望や要望を取り入れたメニュー作りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緊急性、優先しなければならない事柄もあるが、出来る限り個々のペースに合った生活を行って頂いています。一人ひとりの体調に配慮しながら、突然であっても臨機応変に対応し本人の希望を大切にしています。入浴に関しても、出来るだけ希望に沿った曜日、時間の取り組みを行っています。 家事参加の支援も、時間を問わず本人のタイミングに合わせて実施して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に使用される化粧品の管理、衣類の買い物等、外出が困難な利用者様には、写真をお見せして選んで頂くなどし、意向に沿う事が出来るような支援を行っています。また、馴染みの理美容院を継続して利用していただけるように支援しています。こだわりのない方へも月に一度訪問理容を取り入れ、本人の希望に沿ったお洒落を楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回程度で栄養献立会議を開催し、利用者様と職員と一緒に献立作りを行っています。献立には利用者様の個々の希望を盛り込んで定着しています。調理は、個々に出来ることを把握し、包丁での作業や、味付け、盛り付けなど、役割を持っていただき、皆で食事作りを行う事を大切にしています。また、テーブルにカセットコンロを置き、目の前で煮炊きものをしたり、盛り付けを行うことで、視覚や臭覚、からも食欲を刺激し、少しでも利用者様が調理に参加できるよう工夫しています。	食事作りの過程を大切にしており、3食とも手作りで。栄養献立会議を開催し、利用者の嗜好を取り入れながら、献立を考えています。近隣に買い物場所がないことから、食材は配送で注文し、お米は近隣から購入しています。リビングの隣にキッチンがあり、テーブルで食材に触れながら、皮むき、味付けや盛り付け、片付けなど利用者ができることを担ってもらい、皆で食事作りに参加しています。時に、利用者と一緒にテレビのクッキング番組のレシピに挑戦することもあります。利用者の希望でピザや豚まんなど手作りを楽しみました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食チェック表に記入をし、一人一人の把握を行っています。特に水分に関しては、多種類の飲み物を用意し、多種類の大きさのコップを用意し個々に合わせた提供の仕方を工夫しています。その時々飲みたいものを伺い、個々に熱さを調整したり、好みのものを飲んで頂けるように工夫している。また、ゼリーなども用意し、個々にあった水分摂取が出来るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後は必ず歯磨き、うがいをして頂き口腔内の清潔保持に努めています。利用者様の状態にあわせて様々な口腔ケアグッズを用意し、スポンジブラシや、歯間ブラシ、舌掃除の道具を使用しています。また、職員は訪問歯科にて個々に合った口腔ケアの指導を受けています。 義歯の不具合による、咀嚼や嚥下、誤嚥に注意し、随時、歯科医師へ相談を行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を使用し個々の排泄のパターンの把握に努めています。「排泄はトイレが当たり前」という考えを基に、出来るだけおむつを使用しないように支援しています。トイレ誘導が必要な方については、羞恥心に配慮し、不安な気持ちにならないように声かけにも十分配慮しています。排泄物品の見直しや、介助方法など常に見直しを行っています。日中は布の下着で過ごして頂いています。</p>	<p>「排泄はトイレで」を基本としており、職員は、利用者の排泄リズムを把握して、トイレで排泄できるように誘導しています。また、排泄自立に向けて、トイレの便座の高さを利用者に合うよう工夫しています。できるだけ、日中は布製の着を着用してもらうようにしており、下着が汚れた場合はすぐ交換し、清潔への配慮や不快な気持ちを与えないよう、努めています。夜間は利用者の睡眠の状態と合わせてパッド等やポータブルトイレを使用することもあります。便秘対策として、ヨーグルトやゴボウ茶、運動など、自然排便を促しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>献立作成時に食物繊維の豊富な食材を取り入れたり、ヨーグルト等の乳酸菌の摂取にも配慮し、排便の管理行っています。また、朝の排泄にはゆっくりと時間を取って排便を促す配慮を行っています。便器に座りしっかり排便の姿勢が取れるようにも物品を使用し、排便を促しています。</p> <p>毎朝、体操時には全身を動かす楽しい体操を実施し、運動量が少ない利用者様には、自然に施設内を歩いて頂けるように、職員からの働きかけを行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴時には本人の体調や心身機能に留意し支援を行っています。入浴は基本的には2日に1回入って頂きますが、毎日入浴可能で、ご希望があれば柔軟に対応しています。拒否がある場合でも、足浴や部分浴を行い、入浴に繋がるようにタイミングを見て働きかけています。また、季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯など実施し、保湿剤などを使用し、入浴を楽しみにしていただけるように工夫しています。</p> <p>健康や衛生面、気分転換の為に、フットケアに力を入れ、入浴のない日は足浴を実施しています。</p> <p>重度化した利用者様にも、家庭浴槽にて入浴して頂けるように工夫しています。</p>	<p>利用者は週3回の入浴を基本に、希望すれば毎日入ることも可能です。浴槽は個浴ですが、介助により車椅子の利用者も浴槽に浸かっています。貳番館では浴室のリフォームを機に浴槽を一回り小さなサイズに交換したところ「不安感なく入れるようになった」と利用者から好評です。フットケアにも力を入れており、入浴しない日や、入浴を拒む方には洗面室に椅子を置いて足浴を実施しています。入浴を拒んでいた利用者が、足浴の途中から入浴を希望し、切り替えることがあります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日常的にいつでも休息を取れる体制や環境づくり、物品の用意などを行っている。倦怠感や諸症状を訴えられない方も含め、個々の体調管理を行っています。</p> <p>特に夜間帯については、安眠が確保されるように入眠前の温かい飲み物の提供や、水分補給、個々にあった寝具の準備、室内の明るさの調節などの配慮を行い、状態にあった支援を行っています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>既往歴の把握や、現状の心身の把握を常に行い、薬に対してはお薬説明書を活用し、効果や副作用、注意点などについて確認しています。また、誤薬予防のために投薬時にはダブルチェック、トリプルチェックを行っています。また、落薬予防のためにも、服薬時の工夫をおこなっています。症状の変化については、随時管理医に報告し、指示に従っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様個々の生活歴、家族からの情報により趣味や得意なこと、日常生活から読み取れる興味のあることを把握し、張り合いのある生活が出来る様、支援しています。 個々に得意な事で役割を持って頂き、日替わりで当番を作り、誰もが出来る事でも主となり、自信を持って活躍できる環境づくりに努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>施設の周りは季節を感じる事が出来るのどかな風景が広がっており、気候のいい時には、庭で食事をしたり、喫茶などを行い、日常的に外の空気を吸える環境にあります。夏には庭での野菜の収穫なども、利用者様と共に行っています。また、家族様の協力のもと、お盆やお彼岸にはお墓参りに出掛け、家族様との食事の機会などを設け、外出の支援を家族様と共に協力し行っています。</p>	<p>目の前に田畑や針葉樹林の丘が広がる、自然に恵まれた場所にあるホームでは、玄関の外に置かれたベンチで外気浴をしています。天候の良い日は職員と周辺を散歩したり、徒歩10分ほどのところにあるハンバーガーショップや理美容室に出かけたりする利用者もいます。外出行事やレクリエーションとして春の花見や外食を行っています。</p>	<p>畑に囲まれ、敷地内でも十分に自然を感じることができますが、週1回程度の屋外散歩を習慣化してはいかかでしょうか。農作業中の人たちとの会話や顔見知りになることで更に地域とのつながりが深まります。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方には金銭管理をして頂いています。自己管理が出来ない方には、職員と一緒に買い物をしたり、レジで支払いをして頂いたりし、社会参加の支援を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望があれば、随時対応を行っています。家族様の希望や、携帯番号も把握し、支援させていただいています。家族の協力もあり、電話をかけて頂く支援も行っています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂やリビング、居室の窓から外の景色がいつでも見ることが出来、草花や作物の実りから四季を感じる事が出来る環境にあります。また、リビングの壁には季節が分かるような壁面を飾ったり、廊下には日常の様子を写した写真や、家族様に送っている通信などを貼り、会話が弾む工夫もしています。</p> <p>共有の空間であるリビングに、ソファや椅子、図書コーナーを設置し、好みの活動が出来るスペースを確保しています。生き物を飼育し餌やりの体験や、様子を眺める事ができるよう、癒しとくつろぎの空間を作っています。</p> <p>和室にはソファを設置し、ひざ掛けや、まくらなどの物品を常備し、ゆっくりと過ごして頂ける配慮を行っています。</p>	<p>平屋の建物は天井が高く、ゆったりと明るく快適です。食堂兼居間をはじめ、どの部屋からも四季折々の美しい風景が広がります。忝番館と忝番館は台所を挟んで行き来でき、忝番館の食堂の横にはソファを置いた畳の部屋が用意されています。食堂には図書コーナーを作り利用者が気軽に読めそうな雑誌や絵本、図鑑、旅行書などを揃えています。</p> <p>エントランスホールや廊下には、イベントや誕生会に撮影した利用者の表情豊かな写真が多数掲示され、生き活きとした暮らしぶりを家族等に伝えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ以外にも、お一人でも座れる場所の確保と足を伸ばしてつろぐことの出来る椅子の設置を行い、居場所の工夫をしています。仲良しの利用者さま同士が話をしやすい座席の配慮も行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや御仏壇、手作りされた作品などの持ち込み、信仰宗教への配慮などを行い、居心地の良い環境を作っています。 また、思い出の写真や活動時の作品などを飾って頂いています。	電動ベッドと収納力のあるクローゼットを備え、壁には大きな文字の掛け時計や塗り絵のカレンダーが掛けられています。オムツ類などはすべてクローゼットに収納し、日中はベッドの防水シートを外すなど羞恥心に配慮した取り組みが徹底されています。また、居室には利用者や家族が持参したテレビ、写真、人形やぬいぐるみなどのほか、職員が用意した利用者個々の趣味を反映した図書が置かれ、その人らしい暮らしを支援しています。相撲好きの利用者のために職員が描いた力士のイラストを飾った部屋もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に理解しやすい表示の工夫をしています。 例えばトイレ表示や表札を目の高さに合わせたり、わかる言葉や文字での配慮を行っています。		